

内科医がゼロになる可能性が強まっている市立病院

市立病院



健全化に黄信号

消化器科の常勤医師は七月までに辞職した。新科の四人、呼吸器科二人、

非常勤の医師で外来の診療をまかなっている

的な待遇改善も求められ

(中尾吉清)

**[江別]** 江別市立病院の内科系の医師七人が相次いで辞职を申し出で、九月末には内科系の四つの診療科の常勤医師がゼロになる可能性が強まっている。同病院は二〇〇四年度末で累積欠損金が三十四億円余りに達したため経営健全化計画を策定、本年度から五ヵ年で取り組み始めたばかり。医師不在で、計画遂行にも急ブレーキがかかりそうだ。

院長が辞任し、そのまま空席となっている。そのまま市立病院には夜間急病診療所(夜診)が併設されていて、当直医が救急医療にも駆け出され「負担が重すぎる」と指摘されていた。

重い症状の患者は、紹介状を手に札幌への通院を強いられている。

入院患者も定員一百七十八床(うち四十六床は休止中)に対し七月末時点で百七十一人と減り、収益も悪化の気配だ。

**民間と待遇に差**  
来月末まで 辞職申し出

# 内科系常勤医ゼロに?

内科(内分泌系)一人の  
計七人。一人は地元で開業するが、残りは市外の  
民間病院などに移る。  
昨年八月には内科系の  
常勤医師は十二人いた。  
流出が続くのは、池田和  
司事務員によると、「民  
が、文庫やコピーに「呼  
吸器科、循環器科、糖尿病、  
甲状腺の新患受け付  
けはできなくなりました」  
た」という断りや、  
医師の離任予定を記した  
張り紙が目を引く。

## 全内科医が辞職 江別市立病院

**[上田]** 須磨の市長は高齢で、七十人余を有するが九十五歳未満で、現職で在職する市長立候補者、市長に付ける議員の出選候補を備後守たるが、外務省の休む止む無理の事態は免れが、常務医の先生はおひからず、正規化のめめは立つてない。医師不足と医療とそれがきたる種類別の検査会時と同様に立たなかつた。

# ■ 天師 夜間の重患

# 経営優先？ 遅れた対応

弱まる医局の力

なる医局の力  
市は北大丸井に常勤で、いわゆる「院内勤務」を実行して、病院はなく、四〇年度わたる間、市立の市内唯一の施設である。この間、市は、この問題を常に議論し、市議会では、毎年、この問題を議論するが、今も同じである。しかし、この問題は、市議会では、毎年、この問題を議論するが、今も同じである。しかし、この問題は、市議会では、毎年、この問題を議論するが、今も同じである。

「市、町、村それ  
事情が重なって起  
物内医の不在。  
事情は置き去りに」

経営優先? 遅れた対応

羽まる医局の力

「市立病院の男性医  
院長は死んでる。  
『殺された』と報じ  
たところが、『死んで  
いた』と誤って報じ  
られた。」と矢張り医  
院内での不祥事。  
事情は複雑で、